

～ 理事長事業方針 ～

公益社団法人白河青年会議所
第62代理事長 片野 仁人



スローガン

共創

～共に創ろう、しらかわの未来～

基本理念

勇気を持って前に進もう。
その歩みが、青年を成長させる。
青年の成長は、未来を明るく照らす。

～はじめに～

1959年7月18日、全国166番目のLOMとして白河青年会議所は輝かしい第一歩を踏み出しました。本年、白河青年会議所は創立より62年目を迎えます。ここでは、しらかわ地域に住む青年世代の人間が、切磋琢磨し試行錯誤を重ねながら、しらかわ地域の発展に貢献してきました。様々な先輩方が数多くの青年会議所活動に取り組み、歴史を積み重ね、今に至っております。

常に変わらないこと。それは未来を見据えていた青年会議所活動に取り組んでいたことです。かつて、昭和から平成へと時代が変わった頃、30年後を見据えた活動に取り組んでいた事例があります。そして、平成から令和へと時代が変わった今、その当時行われていた未来を見据えた活動が結実したのです。それが、白河ナンバーの実現です。その過程では、諦めそうになる時もあったことだろうと想像されます。しかしその活動は、明るい豊かなしらかわの未来に繋がるといふ熱い想いがあったからこそ、継続できたのだらうと感じています。今、先輩方からバトンを受け継ぎ、精一杯青年会議所活動に取り組んでいるからこそ、それを強く感じる事ができるのです。我々は、この歴史と伝統を踏まえ、熱い想いを持って、今の時代に生きる青年だからこそできる未来を見据えた活動を展開して参ります。

競争 ～青年経済人としての成長を重ねる～

白河青年会議所の会員は、毎年、初めて担う役職と向き合うことになります。各々が試行錯誤の日々を過ごし、自分なりの目指す姿を模索します。そして、仲間と共に同じ時間を過ごす中で、伸ばすべき部分や不足している部分を見出し、さらに改善を重ね、自分を磨くことになります。

成人となり、社会人として様々な出会いを重ね、多くの経験を積んだ会員が集まっています。そんな会員同士でも、仲間が真剣に青年会議所活動に取り組む姿勢を見て、尊敬の念さえ抱くことがあります。つまり、青年会議所活動は、相互の啓発に繋がり、自己成長にも繋がるのです。

また、青年会議所活動では、実行力も求められます。様々な価値観を持つ仲間に対し、自分の言葉で想いを伝え、意見を交わすことで実施する内容を磨き、地域に対し貢献できるよう、会議を重ねます。

文字や数字の羅列では伝わらないことがあります。伝えるために必要なこと、それは熱い想いを持って前に進もうとする姿勢なのです。それこそが、青年会議所で身に着けることができる実行力であると信じています。会員が一人の青年経済人として何かを決断し、前に進む機会が訪れた時、ここで身に着けた実行力は貴重な財産となることでしょう。

また、仕事や家庭、青年会議所活動と、多忙な時間を過ごす中で、時に自信を失うことや、悩んでしまうときもあるでしょう。同じ立場の仲間に不安や悩みを相談することで、新たな気づきを得ることや、前に進むこともあります。そうした積み重ねは、仕事を通して得られる人脈とは異なる、ここでしか得られない唯一無二の友情を生み出すことになると信じています。

青年会議所で過ごす時間の中で、様々な経験を積んだ結果、誰かのために何かを行うことに価値を見出すようになるでしょう。すなわち、利他の心です。自分さえ良ければ良いという、利己主義的な青年と、誰かのために尽力できる利他主義的な青年が存在するとします。未来を担う子供たちが、その両者に接したとき、どちらの青年を尊敬できるでしょうか。しらかわ地域の未来を明るく照らすことができる青年は、どちらでしょうか。

競争は、青年経済人の成長に繋がります。可能性は無限大なのです。我々白河青年会議所の会員は自ら機会を見出し、有意義な時間を過ごして参ります。

協奏 ～2020年福島ブロック大会 in しらかわに向けて～

本年、しらかわの地において、第50回福島ブロック大会が開催され、白河青年会議所が主幹LOMとなります。ブロック大会は、我々青年会議所が行っていること、目指していることを広く発信することができる最高の機会です。まず、会員同士が協力し、このブロック大会を成功させるように、楽しんで一步一步前に進んで参ります。そして、福島県ブロック協議会の皆様と力を合わせ、挑戦と革新にあふれる、分け隔てなく開かれた、持続可能なふくしまの実現に繋がるような大会を目指す所存です。

そのためには、団体という垣根に縛られず、多くの青年の力が必要です。我々では生み出すことができない発想や、実績に基づく手法をもとにアイデアをぶつけ合うことは、青年同士の切磋琢磨に繋がりに、互いの成長に結びつくことでしょう。多様性の中から理想像

を洗練させ、未来に繋がる試みを生み出すことが、大会の成功に必要であると考えます。協奏曲は、個による音色や複数の演奏者が織りなす音色が重なり合い、一つの作品として完成されます。同じ地域の仲間が連携することで、ブロック大会をより良いものに仕上げることができるでしょう。

白河の歴史に多大なる貢献をした松平定信は、かつて南湖公園を築造した際、分け隔てなく誰もが楽しむことができる場所になることを望み、士民共楽という概念を掲げました。令和という時代を迎えた現在、広く開かれたブロック大会を開催し、この大会を訪れた全ての人を楽しみ、学びを得ることができる有意義な機会となるよう準備を重ねて参ります。

ひとつづくり ～「自信」を持つことの意味～

人生において、誰もが困難な壁に直面するときがあります。全てが思い通りに進み、何一つ苦勞することがなく成功できる人間などおりません。どんな有名なアスリートでも、壁が目の前に立ちはだかり、その度に自問自答し、試行錯誤を重ねる日々を送ります。ようやく壁を乗り越え、結果を出す。後から振り返ったとき、その経験が自身の成長に繋がっていたことに気付いたという話を聞きます。特別な人間など存在せず、人は誰でもそのような過程を経て、成長していくのです。

人をつくるということは、高みを目指すことができる人を育てることです。つまり、生きていく中で壁に直面した時、壁に背を向けるのではなく、壁を越えて、前に進もうとする人を育てることです。そんな人が胸に宿すべき物、それは「自信」です。頑張ろうという気持ちを下支えする根幹となるのが「自信」なのです。では、「自信」とはどのようにして醸成されるのでしょうか。それは、やればできるという経験を積むことです。どんなに小さな壁でも、それを超えるためには努力が必要です。そして、努力し壁を越えて前に進んだ成功体験は、その人にとって貴重な財産となります。再びその人の前に壁が現れたとき、成功体験に基づく経験から、壁を乗り越えようとする強い意志を持つことができるでしょう。自分を信じることができるからです。すなわち、「自信」が備わったことを意味するのです。私たちは、青年会議所活動を通して「ひとつづくり」を行う際、その人にとっての「自信」が備わるような事業を目指して参ります。そんな「ひとつづくり」によって、生きていく中で壁に直面した時、

壁を越えて前に進もうとする人が、この地域に一人でも増えたとしたら、このしらかわ地域の未来は輝かしいものになると信じているのです。

作業ではなく営みへ ～真面目に、一生懸命、楽しんで～

我々は、公益社団法人白河青年会議所という組織に在籍しております。組織を運営する際、全体を俯瞰し個々をまとめ、後方支援に努める力が必要です。また、公益社団法人に在籍する我々は、活動の活性化だけではなく、組織の信頼性を確保する必要があります。そのためには、予算面の確認に努める力も必要となります。そこでは、数字を数字として見るだけではなく、なぜその数字が存在するのか、数字の先に想いを感じることができるのかについて、判断することも求められます。

組織の維持や、計画遂行の途中には、時に単純作業が重なることもあるでしょう。しかし、真面目に向き合い、一生懸命に取り組み、楽しむ心を持つことで、単なる業務処理ではなく温かく血の通う営みになるのです。そして、そこには笑顔が生まれ、笑顔から生み出される温もりは組織に確実に伝わります。いつしか組織の維持への努力は、活動の活性化の原動力になることでしょう。我々は公益社団法人白河青年会議所の会員として、活動の活性化と、組織の信頼性の維持にも努め、実りある一年を過ごして参ります。

相乗効果 ～力の結集～

何かを実施する際には、多くの発想や、多くの力が集まった方が、その内容や規模は大きく豊かになっていくものです。

我々白河青年会議所においても、多くの会員が所属していた方が、地域貢献に繋がる取り組みを実施できると考えております。会員拡大は、組織の維持に加え、相乗効果を生み出すためにも必要不可欠です。様々な青年団体が存在する中で、白河青年会議所はどんなことをしているのか、外部に発信していく必要性を感じています。

最も恐れるべきもの、それは無関心です。ゼロからは何も生まれません。我々白河青年会議所に興味を持ってもらえるよう、まだ見ぬ青年世代の方々と交流を深めるため、新たな取り組みを実施して参ります。そして、我々自身も会員拡大に対する意識を高めて参ります。相乗効果により、青年にしかできない発想で溢れる白河青年会議所を目指して参ります。

新たな指標を掲げよう

～我々が行う青年会議所活動の方向性と国際社会共通の目標～

時代は平成から令和へと変わりました。新たな時代の中で活躍が期待される我々は、青年経済人として様々な経験を経て成長を続けることが求められております。2019年より、我々青年会議所は持続可能な目標（SDGs）への取り組みを推進することが求められています。SDGsとは、国連で開かれたサミットの中で定められた国際社会共通の目標を指します。

普段取り組んでいる青年会議所活動、さらには当たり前のように行っている日々の活動が、国際社会が掲げる目標と照らし合わせたとき、どんな意味を持つのか。新たな指標を掲げてみることで、目的意識の向上が期待されます。我々白河青年会議所は、本年行う青年会議所活動を、国際社会が掲げる目標であるSDGsと照らし合わせて参ります。そして、新たな指標に寄り添い、持続可能な地域の未来、そして明るい豊かな社会の実現を目指して参ります。

共創 ～共に創ろう、しらかわの未来～

青年がすべきこと。それは、勇気を持って前に進むことです。何かを行う時、困難な壁が目の前に現れることでしょう。

しかし、迷っても、不安に陥っても、立ち止まることなく、少しでも前に進んでいきましょう。

そして、道は創られていきます。

その道は他者から見たとき、最短距離で目的地に向かわず、遠回りしているように見えるかもしれません。

しかし、迷い、緊張に震えながらも、勇気の炎を絶やさずに描き続けた軌跡は、その青年にとって、そのときにしか創ることができない独創的な道となります。

自分を信じて歩み続け、不恰好でも道を創った青年に宿る物、それは自信です。遠回りした過程も、無駄ではなく自信に繋がるのです。そんな自信の積み重ねは、青年を成長させていくことでしょう。

前に進むことで自信を得て、成長を重ねた青年は、少しずつ輝い

ていきます。そんな青年が、一人、また一人と増えることで、その輝きは、力強さを増していきます。輝く青年達が共に集い、力を合わせ、創り出されるもの。それが未来を明るく照らす美しい光です。今を生き、地域を支える青年として、日々を大切に過ごし、一歩でも前に進み続け、共にしらかわの未来を創っていきましょう。